



・発行者・  
京都障害者  
スポーツ会  
振興会

題字 芝田 徳造

# 日本中に広がれ！卓球バレー

京都卓球バレー協会 理事長

## 長谷川 尚三

去る一〇月十二日、大分県身体障害者福祉センター体育室（大分市）で、第8回全国障害者スポーツ大会オープン競技、2008大分オープン卓球バレー全国交流大会 兼 第30回大分県障がい者・児・秋の交歓会「卓球バレー大会」が、全国各地から多くの選手と役員の皆様の参加のもと盛大に開催されました。京都卓球バレー協会は、審査員として4名参加して来ました。

能回復訓練に有効」と「リハビリ」に発展し、そしていつの間にか、卓球バレーは、重い障害があっても「スポーツ」として、また「競技」として取り組むことができる他のスポーツには見ることのできないすばらしい魅力を持つものとなりました。

この全スポーツオープン競技としての卓球バレー大会。ちょうど今から20年前の1988年、京都国体の後に、第24回全国身体障害者スポーツ大会が開催され、この時に初めて卓球バレーが公開競技として採用されました。しかし、その後他の一部の県には普

及したのですが、残念ながら全国への普及・発展には到りませんでした。

京都と大分の大会の大きな違いは、京都大会では、参加チームはすべて京都府内からだけのチームでした。そしてこの大分大会では、全国各地から参加されているという点です。

去る20年前の京都大会で、当時、「京都太陽の家」の職員堀川裕二さんが卓球バレーのチームを組んで出場されました。その後、別府太陽の家に転勤され、堀川さんは、今度は九州の地で卓球バレーの普及活動に取り組みました。すると瞬く間に広がっていき、そしてこのたび九州で卓球バレーを愛好する多くの方々の熱意が実り、全スポーツオープン競技としては2回目の大会を開催するに到ったのであります。

みなさん、今卓球バレーは全国に向かって走り始めました。都道府県の各地に卓球バレーの協会があり、動き始めています。

この大会でのもう一つの大きな収穫は、全スポーツ大分オープン卓球バレー大会の開催当日の昼休みに、各県から代表者の方に集まっていたいただき、各県の協会を統轄する「日本卓球バレー連盟」の設立総会が開催され、満場一致で可決されました。

狭い日本とはいえ、たびたびお互いに集まるのは大変です。そこで、この「チャレンジ大分大会」での卓球バレー大会」と「日本連盟設立」を起爆剤とし、それぞれの地方で、今後さらに卓球バレーの活動に取り組み、また、まだ卓球バレーが普及していない都道府県にも普及活動させていくことを日本連盟に所属する地方協会の使命とすることを約束したのです。

### 2008年10月12日

### 大分 発

## 「日本中に広がれ！ 卓球バレー」

行事予定	11月	11(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園
		15.22.29(土)	車いすハンドボール審判講習会	京都市障害者スポーツセンター
		16(日)	206回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール
		23(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽
		24(祝・月)	第17回ふれあい卓球バレー大会	京都市障害者スポーツセンター
	12月		乙訓障害者スポーツのつどい	向日市民体育館
		29,12/6,13(土)	京都府障害者スポーツ指導者研修会①,②,③	京都市障害者スポーツセンター
		30(日)	第19回全京都車いすハンドボール大会	京都市障害者スポーツセンター
		5(金)	第4回京都市精神障害者バレーボール大会	京都市体育館
		6(土)	卓球専門部ワンポイント講習	京都市障害者スポーツセンター
	9(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010				来月のつどいは <b>12 / 14</b> 第2日曜日
<a href="http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/">http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/</a> (9月28日に一部更新)				

# スポ振ルネサンス(8)

京都障害者スポーツ振興会  
副会長 水谷 裕

先月号で、現在の振興会の活動は、個々の専門部が自分の守備範囲のみの事業をこなしていれば、他の専門部のエリアまで気にしなくても振興会の事業はほとんど消化されていくような仕組みになってしまし、振興会全体を見なくても済むようになっていくとの観点から、振興会発足当初からの根幹事業のひとつである「障害者スポーツのつどい」を例に挙げて、専門部間での内部努力(協力)で人員不足などをカバーし合える体制を構築にすべき。つまり、他の専門部から部員を毎月「つどい」に、ひとりずつ交代で送るような体制をとれば、10名余りのスタッフの確保が可能になり、参加者の安全性が高められるし、他の専門部から派遣された部員にとっても、振興会の根幹事業としての「障害者スポーツのつどい」の本質と必要性が理解

できるようになり、以後の活動の糧となると、提案をしたのですが、今月号では、もう少し述べてみたいと思います。

事業を進めるに必要なスタッフなど人的資源の確保が出来るといっても、個々の専門部には、それぞれ専門性があり、それぞれの立場を持って活動を行っているのです。各部としては、部外からの協力を受け入れることによって、その受け入れた人が勝手な動きをして、常々行っている事業を進行するうえで支障をきたすことになることを極力避けたいという思いがあると考えます。

とりわけ、例に挙げて「障害者スポーツのつどい」は、永年培い育んできた運営方法や障害のある人々への関わり方など、様々な面において作り上げてきたものを、たまにきた人にかき回されたくないという心情は理解できるのです。もう少しというと、学生のボランティアなどに色に染まっていけない人は良いのですが、なまじっか色んなことをかじってきた人は、俗に「3日やったから、教えたがる」と言われ

るように、指導上のことを含めて勝手な行動をし、場面を壊しかねないことが目立つのです。

だからといって、他の部からの協力者が、場面を壊すというわけではありませんが、こういった疑念を抱かせないためには、その事業、事業でのスタッフのポジションを寄り明確にし、入念なミーティングのもとに事業を進行するということ。

その事業を受け持つ部会の部員は、プロデューサーとして、ディレクターとして、事業運営を担い、他の部会から協力をしにきた人は、いくら、豊富な経験を持っていても、現場ではいちスタッフに徹し、運営等に口を出し、そのときに指示されていること以外の余分なことは行わないということを徹底すれば、容易に受け入れられるのではないかと考えます。

何はともあれ、自分たちの部会で受け持っているとして、事業を取り込んでしまう(担当するものとしての意識は大切であるが、)のではなく、受け入れ

体制を整えて受け入れることによって、個々の負担が軽減されることになり、結果として、より事業の円滑化が、図り易くなると思います。

これは「つどい」のような事業だけでなく、「大会」など、他の事業においても同様に行うことによって、効果は大きく表れてくるのです。

事業活動は、単に専門部会のものでなく、振興会のものであることは、当然のこととして役につくものは周知のことであると認識してはいますが、実際には、ほとんど受け持ちの部会と事務局に任せて、他は案外知らんふりをしていられるように思います。如何にすれば、京都障害者スポーツ振興会全体の活動となるのか考えて欲しいものです。



平成20年度障害者スポーツ  
指導者研修会  
公開講座  
(一般の方でも参加できます。)

(日時)  
12月13日(土)  
9時30分～12時30分  
(会場)  
京都市障害者  
スポーツセンター  
(講座:講師)  
障害者福祉論・手話研修  
講師 小出新一

(日時)  
平成21年1月11日(日)  
9時～11時  
(会場)  
京都府立体育館  
(講座:講師)  
精神障害者福祉  
講師 中島康典

(お知らせ)  
第6回京都障害者  
チャンピオン卓球大会  
(開催日時)  
平成21年1月25日(日)  
9時30分受付  
10時から午後4時まで開催  
(会場)  
京都市障害者スポーツセンター  
詳細については、  
京都障害者スポーツ振興会  
までお尋ねください。